

◆ 平成 28 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：かわごえ里山イニシアチブ

19A-14

代表者：代表理事 増田純一

URL : <https://www.facebook.com/kawagoesatoyama>

1. 活動が必要とされた状況

近年増加しているミツバチの大量死、多動性障害や自閉症は、脳神経系に影響を及ぼすネオニコチノイド系農薬が原因とされ、欧州・米国の研究機関で科学的に証明され、2013年には欧州では全面禁止となっているにもかかわらず、日本は規制どころか許容基準が年々緩和されています。このままでは子供たちの健康が損なわれることから、農薬を使わない環境豊かな生物多様性育む田んぼの普及・啓発活動を行っています。

また、ラムサール・ネットワーク日本が愛知目標（COP10）の達成年度である2020年を目標として取り組んでいる「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の行動計画を基本に連携して活動し生物多様性向上に貢献しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成28年3月の「2016 田んぼフォーラム」を皮切りに、民間稲作研究所の稲葉光國氏を講師に招き3回の「有機稲作ポイント研修」を行いました。田植え研修も含め延べ130名の参加者がありました。今年は「生きものを育む田んぼプロジェクト」を立ち上げ、個人・団体と連携して環境と経済が成り立つ活動を始めました。田んぼプロジェクトでは、米作りの他、田んぼの文化伝承としてマコモでお盆飾りや正月飾り作りのイベント、生きもの調査（動物編）と食べる生きもの調査（植物編）を行いました。これらのイベントの参加者は150名を超えています。環境保全型による『マコモ』栽培も本格稼働し川越のそば商青年組合とのコラボでスタンプラリーも開催されました。



有機稲作ポイント研修



生きもの調査（動物）



生きもの調査（植物）



国連生物多様性の10年日本委員会による認定授与式

3. 活動の成果

昨年10月には生きものを育む田んぼプロジェクトが、国連生物多様性の10年日本委員会に認められ認定連携事業となりました。2月にラムサール・ネットワーク日本と共同主催で「田んぼの10年全国集会 in 川越&第3回田んぼフォーラム」を開催し、コウノトリや雁の舞い戻る自然豊かな川越を取り戻す活動を全国的にアピールすることが出来ました。生きもの調査を通じて大勢の子供達に生きものによる環境の大切さを教育することができました。このような活動の拡がりによって賛同者や参加者が年々増加し、生物多様性豊かな田んぼの環境の普及・啓発を行うことが出来ました。

4. 今後に残された課題

活動の継続性や農薬を使わない抑草のために水の安定確保が必要で、この為「井戸掘りプロジェクト」で井戸を掘ることが必須の課題として挙がってきました。また、活動を継続していくための大型農業機械の運用・維持・管理の経費の問題が挙げられます。